【第Ⅰ部 総論 体系図】

【総合計画策定の意義】（第1章）
合併の効果を最大限に発揮し、市全体の均衡ある発展を実現するとともに、将来に向けて大きく飛躍する都市を目指して、中長期的な視点から新しいまちづくりの方向性を示す。

【燕市の概況＜位置・地勢＞】（第2章）
○新潟県の県央地域、新潟市と長岡市の間に位置。
○北陸自動車道や上越新幹線などの高速交通機関と国道、JR線などが交差する交通の要衝。
○市域は、西部の国上山周辺を除いてはほぼ平坦な地形。ほとんどを水田として利用。
○信濃川、大河津分水路をはじめ、中ノ口川、西川、大通川など多くの川や、豊かな自然　を残す国上山など、美しい自然景観。

【人口と世帯】（第3章）
○総人口は、平成12年まで概ね増加傾向。平成17年にかけて減少し83,269人。
○0～14歳人口、15～64歳人口は年々減少。65歳以上人口は増加。
○世帯数は増加傾向。1世帯あたりの人員数は減少傾向。核家族や単身世帯などが増加。
○過去5年間の社会増減は転出が転入を上回り、自然増減も死亡が出生を上回る。
○出生数は、一時的な増加は見られるものの、長期的には減少傾向。

【燕市の概況＜沿革＞】（第2章）
○江戸時代、信濃川や中ノ口川、西川などの恵まれた水利を利用した米づくりが盛ん。舟運を利用した米や物資の集積地として栄えた。
○鉄道網にも恵まれ、商工業が発展。
○信濃川、中ノ口川はたびたび氾濫をおこし、多くの田畑、町村が水没。昭和6年、大河津分水路が完成し、湿田地帯だった越後平野の乾田化が進み、豊かな穀倉地帯が誕生。
○和釘の製造技術から始まり、現在の金属洋食器、金属ハウスウェアの製造の技術へ転換。優秀な金属加工の集積地として地場産業が発展。
○市西部の国上山は名僧良寛が約30年を過ごした地。良寛ゆかりの五合庵や乙子神社草庵などの史跡が観光名所。
○江戸後期、私塾「長善館」が創設され、多くの有為な人材を輩出。

【燕市を取り巻く社会潮流】（第4章）
1. 人口減少社会の到来
2. 成熟社会における“質”の重視への転換
3. 大都市と地方との格差拡大
4. 多様化・国際化の進展
5. 地球環境の保全
6. 技術革新・急速な情報化への対応
7. 安全・安心へのニーズの高まり
8. 新しい公共の時代

【燕市の特色と主要課題】（第5章）
1. 好条件の立地の活用と外部環境の変化への備え
2. 美しい河川空間や自然、田園風景の保全、活用
3. 基幹産業としての製造業の基盤づくり
4. 商業や観光の振興
5. 農業基盤の整備と後継者の育成
6. 人口減少、少子化、高齢化への対応
7. 地域文化の創造と生活の“質”追求
8. 地域が自ら守る「安全・安心」体制の構築
9. 財政基盤の強化と市民との協働の推進